

『白樺』同人たちの揺籃期—明治30年代の学習院と美術

作家志賀直哉や武者小路実篤が美術に造詣が深く、自ら絵筆をとったことはよく知られている。彼らは明治43年(1910)に創刊した雑誌『白樺』に西洋の絵画・彫刻の図版を掲載し、展覧会を開催するなど、西洋美術の紹介に貢献した。『白樺』同人らが西洋の絵画技法の基礎を学んだ場は、学習院の図画課の授業であった。

学習院の図画課は初等学科4年級より、鉛筆を用いる「西式画」と、毛筆を用いる「和様画」の2課に分かれ、学生はそのいずれかを選んだ。『白樺』同人の多くは中等学科(満12歳から6年制)で「西式画」を選択している。中等学科3年級までは手本を写す臨写を課題とし、4年級以後は主に実際の風景や石膏像などを前に写生をおこなった。本頁に掲載する図はその課題作品で、同じ課題を描いていても、線の太さや濃淡の具合、陰影の付け方などに各々の表現を見てとれる。

『白樺』同人らが中等学科に在籍していた明治30年代は、白馬会などの洋画団体が活発な活動を見せ、社会的に美術が流行していた時期であった。その流行は学習院の学生にもおよび、明治34年には当時中等学科2年級の児島喜久雄が、雑誌『明星』に作品を掲載されている。同35年3月の『学習院輔仁会雑誌』57号には自称「美術家」の学生が登場し、同会の絵画小品募集に際して「僕等は喜ばしくつてよろこばしくつて日夜其考案に暇を費やしている」と興奮を隠せない。修学希望者も増えたことから、同年11月には、西式画の教授松室重剛が「画学随意科」設置を希望する上申書を書いたほどである。こうした学生らの美術への意欲は、桜虹会(後の輔仁会美術部)に結実する。同会は同36年の輔仁会春季大会で初の展覧会を開き、翌年の秋季大会には油絵や水彩画など百数十点を陳列した。展覧会は好評を博し、以後は輔仁会大会での開催が恒例となった。

松室は先の上申書に、画学の修学は「志願者等ノ高等技藝ニ遊テ優美ノ品性ヲ養フコトヲ得ルノミナラス、其成作物ハ他学生ノ眼目ニ触レテ自然ニ感化ヲ一般ニ及ホ」すと述べている。学生たちは、輔仁会の雑誌や大会を通じて、同世代の創作する美術や文芸に触れ、互いに感化していたことだろう。こうした風潮の学習院の中に、『白樺』同人たちは10代の学生時代を過ごしていたのである。

(EF共同研究員 戸矢浩子)



志賀直哉(3年)
「ヴォルテール頭像」M31年頃



児島喜久雄(4年)
「牛頭部」M36年頃



武者小路実篤(2年)
「風景」M31年頃



正親町実慶(日下諒)
「風景」M34年頃



園池公致
「ラファエル少女頭像」M37年頃



田中治之助(雨村)
「ラファエル少女頭像」M37年頃



武者小路実篤(2年)
「獅子全身像」M31年頃



柳宗悦
「獅子全身像」M35年頃

Mは明治、()内は筆名、〈 〉内は記名に付された学年。〔当館蔵〕

学習院大学史料館からのお知らせ

令和4年度学習院大学史料館春季特別展

「揺籃期の学習院—四谷校地のころ—」

【主催】学習院大学史料館

【共催】一般社団法人 霞会館

【協力】学習院アーカイブズ、学習院大学図書館

【会期】令和4年3月28日(月)～6月3日(金)

開室：月～金曜 12:00～15:00

閉室：土・日曜、祝日

【会場】北2号館1階 学習院大学史料館展示室 *入場無料

【関連講座】第94回学習院大学史料館講座

「学習院の東洋学」

講師：中嶋諒氏(明海大学講師/当館客員研究員)

※WEB上にて5月中旬頃より配信予定

ミュージアム・レター第48号

令和4年(2022)3月10日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(5992)1173

FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>